

# NUAL

名古屋大学全学同窓会

NAGOYA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

# Newsletter

No.19 平成 25(2013)年 3月

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



全学同窓会設立10周年を祝う行事  
Events Celebrating the 10<sup>th</sup> Anniversary of NUAL

## Contents

特集1 全学同窓会設立10周年記念事業報告・・・2

Report of the NUAL 10<sup>th</sup> Anniversary  
Memorial Project

特集2 名古屋大学シンポジオンホールでの  
チェンバロコンサートが20周年を迎える・・・6

The Cembalo Concert at Nagoya University  
Symposion Hall marked its 20<sup>th</sup> Anniversary

活躍する会員たち・・・・・・・・・・・・・8  
NUAL People in Action

同窓会ニュース・・・・・・・・・・・・・10  
NUAL News

事務局からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・16  
From the NUAL Office

今号では、名古屋大学全学同窓会が設立10周年を迎えるのを記念して行われた事業の様子を中心にお伝えします。また、名古屋大学シンポジオンホールでの開催が20周年を迎えたチェンバロコンサートについてご紹介頂きます。

In this issue, we focus on the project commemorating the 10<sup>th</sup> anniversary of NUAL. Also, we introduce the Cembalo Concert at Nagoya University Symposion Hall which marked its 20<sup>th</sup> anniversary.

# 全学同窓会設立10周年記念事業報告

## Report of the NUAL 10th Anniversary Memorial Project

名古屋大学全学同窓会  
代表幹事  
伊藤 義人



図-2 海外支部歓迎会記念写真

### 1. はじめに

名古屋大学全学同窓会は、平成16年度の国立大学法人化を控えた、平成14年10月27日（日）に設立され、本年（平成24年）満10周年を迎えました。これを記念した行事を第8回名古屋大学ホームカミングデイにおいて実施しました。ホームカミングデイ行事全般を含めて、全学同窓会設立10周年記念事業について報告します。

### 2. 全学同窓会設立10周年記念事業

全学同窓会設立10周年記念事業として以下を実施しました。

#### 1) 海外支部長の招待

全学同窓会は、海外支部設立に特に力を入れてきましたが、その最初の支部として、平成17年（2005年）に韓国支部を設立しました。図-1に示すように、平成24年12月14日設立のラオス支部を含め、これまでに11の海外支部を設立しました。今後も、インドネシア、ミャンマーなどの支部設立を予定しています。

設立10周年を記念し、平成24年10月20日（土）開催のホームカミングデイにあわせて10の海外支部長を招待しまし

た。残念なことに、バングラデシュ支部長のイスラム・カーンさんが、直前に交通事故（全治4週間）にあい、急遽来日できなくなりましたが、9支部の支部長またはその代理の方が来日されました。

#### a) 海外支部歓迎会

ホームカミングデイ前日の夜に、海外支部長などの支部代表と豊田会長をはじめとする全学同窓会役員及び濱口総長をはじめとする名古屋大学役員による海外支部歓迎会を学内のグリーンサロン花の木で開催しました（図-2）。

#### b) 全学同窓会評議員会懇談会への参加

ホームカミングデイ当日開催の全学同窓会評議員会懇談会（昼食会）に、国内支部長とともに参加いただき、簡単な挨拶をいただきました。

#### c) 感謝状の贈呈

ホームカミングデイ「名古屋大学の集い」において、豊田会長から海外支部長に、支部及び全学同窓会発展への貢献を賞して、感謝状と記念品を贈呈しました。感謝状は日本語と英文の両方を作成し、英文には、豊田会長に直筆のサインをいただきました。

#### 2) 大学にアカデミックガウンを寄贈

名古屋大学アカデミックガウンの制定は、20年近く前から、留学生から要請されていましたが、種々の理由で実現していませんでした。平成23年にタイ支部長のアピナン・スプラサートさんがカセサート大学獣医学部長に就任され、正式なアカデミックガウン制定への強い要望が齋藤哲夫元農学部長経由で寄せられました。これを受けて、全学同窓会がタイでアカデミックガウンの見本を製作し、濱口総長にお願いして、私が役員懇談会で説明し、承認をいただきました。「名古屋大学の集い」では、壇上の全員がアカデミック

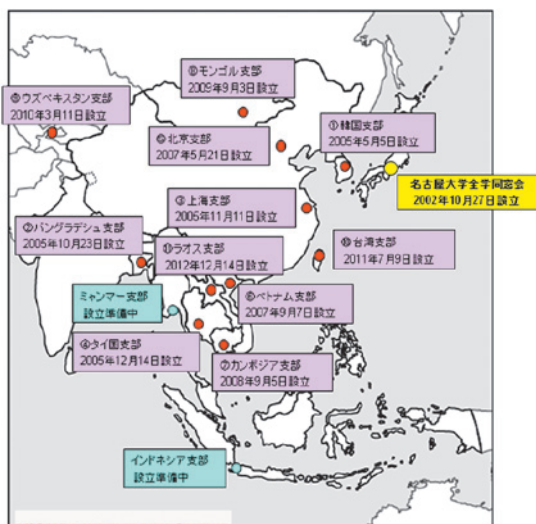


図-1 全学同窓会海外支部設立状況（平成25年1月1日現在）

ガウンを着用しお披露目をしました。また、全学同窓会設立10周年を記念して、15着のアカデミックガウンと角帽を大学に寄付することにし、豊田会長から濱口総長に寄贈目録を贈呈しました（図-3）。

なお、寄贈したアカデミックガウンは、留学生などが記念撮影の際に着用できるよう、各研究科に1着ずつ配られました。

### 3) 全学同窓会設立10周年記念誌の発行

広報委員会（鈴木委員長）によって、全学同窓会設立10周年記念誌を上梓しました。会長、副会長などからご挨拶文をいただくとともに、設立の経緯とこの10年間の活動を記録しています（図-4）。

### 4) 設立10周年記念懇親会の開催

ホームcomingデー終了後の夕方5時から、シンポジオンホールで全学同窓会設立10周年記念懇親会を開催しました。

会場入口では、応援団から出席者全員に紙メガホンが配られ、会冒頭には、名古屋大学混声合唱団による学生歌など3曲の演奏がありました（図-5）。私が進行を担当して、岡田副会長から開会の挨拶をいただいた後、濱口総長から祝辞をいただきました。その後、国内支部長と海外支部

長またはその代理の方々を紹介し、挨拶をいただきました。今回の招待を大変喜んでいること、また、名古屋大学および全学同窓会に感謝していることが述べられました。

平成17年（2005年）12月に設立されたタイ支部の支部旗は、平成23年（2011年）7月の洪水で流出したため、再度同窓会本部で製作し、懇親会の席で当時総長であった平野先生（全学同窓会顧問）から、スプラサート支部長に贈呈していただきました（図-6）。

続いて、応援団からエールを送ってもらった後、太田全学同窓会顧問による乾杯の音頭で祝宴が始まりました。

最後に、紙メガホンに印刷された学生歌を皆で歌い、再度の応援団エールに送られて懇親会は終了しました（図-7）。



図-3 アカデミックガウン寄贈目録の贈呈



図-5 オープニングでの混声合唱団と同窓会役員



図-6 タイ支部旗の再授与



図-4 10周年記念誌表紙と豊田会長挨拶文



図-7 応援団からのエール

### 5) 支援会員増強・同窓会カード会員増強等

2年間の準備期間を経て、平成19年2月から、財政基盤整備を主な目的とした同窓会カード（名古屋大学カード）の発行を開始しました。図-8に示す豊田講堂レリーフ入りのヤングゴールドカードで、年会費は永年無料です。国内・海外旅行傷害保険の付帯もあり、ポイントも全て個人にたまります。カードを利用していたら、利用額の一定割合が全学同窓会に還元されます。



図-8 同窓会カード（名古屋大学カード）

現在のカード会員は約9,300名で年間約700万円が全学同窓会に還元されています。全学同窓会では、これを財源とした大学支援事業を実施しており、大学行事や学生活動を支援しています。カード事業の収益は、大学支援の重要な財源になりつつあり、今後が期待できます。

今回、設立10周年を記念として、カード会員1万人達成を目標にしています。カードを利用するだけで大学とのつながりを意識でき、かつ、大学支援にもなりますので、是非ともこの機会にご入会ください。Web (<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>) でスピード入会もできます。

### 3. 第8回ホームカミングデイ

ホームカミングデイは、全学同窓会からも大学に実施を要請し、大学主催行事として、法人化翌年の平成17年度から実施され、本年度で8回目となります。名古屋大学のホームカミングデイは、もちろん、卒業生・修了生が主な対象者ですが、現役学生の保護者や大学周辺の市民をも対象としています。毎年4,000人前後の参加者を迎え、かなり定着してきており、名古屋フィルハーモニー交響楽団の演奏は特に人気があります。

図-9にホームカミングデイの事前ガイドブックと当日ガイドブックの表紙を示します。



事前送付ガイド

当日ガイド

図-9 ホームカミングデイガイドブック



図-10 丹羽宇一郎副会長講演

今回のホームカミングデイで最も目玉になった行事は、シンポジオンで行われた丹羽宇一郎副会長（駐中国日本国大使）による「グローバル化時代の大学と学生に求めるもの～名古屋大学から Nagoya University へ～」と題した講演会でした（図-10）。豊田会長や濱口総長も出席され、テレビカメラも3台入りマスコミも注目しました。講演の前半は、中国と日本の関係は尖閣諸島の件で、ここ40年間の努力が水泡に帰しており、関係改善には非常に長い時間がかかるだろうという内容でした。後半では、向上心を持って世界の中で挑戦してほしいという学生へのメッセージが出されました。

「名古屋大学の集い」第1部は、浦口史帆東海テレビアナウンサーの司会で進行されました。濱口総長、豊田会長の挨拶の後、ホームカミングディレクター兼全学同窓会代表幹事として、私からホームカミングデイの趣旨と全学同窓会設立10周年について報告しました。続いて、濱口総長から北京支部長のパンさんとベトナム支部長のロンさんに国際交流貢献顕彰が授与されました（図-11）。前述しましたように、アカデミックガウンお披露目のため、豊田会長や濱口総長だけでなく、壇上の全員がアカデミックガウンを着用して、行事が進行されました。



図-11 国際交流貢献顕彰受賞者との記念写真



図-12 名フィルコンサート（独奏：吉田恭子）

「名古屋大学の集い」第2部の名古屋フィルハーモニー交響楽団（図-12）によるコンサートは満員となりました。最初の曲目の大学祝典序曲（ブラームス）は、多少不安定な始まりでしたが、バイオリニストの吉田恭子さんを迎えてのバイオリン協奏曲（メンデルスゾーン）と交響曲第1番（ブラームス）は、出色の出来映えて皆さん大変満足していました。吉田恭子さんからは、「大変気持ちよく演奏できた」との感想をいただきま



図-13 附属図書館の本のリユース市



図-14 あかりんご隊の科学実験

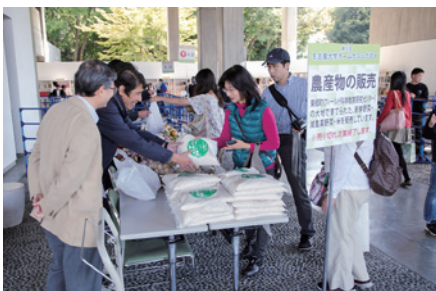


図-16 農産物販売

した。

その他のホームカミングデイ行事は以下のとおりです（図-13～17）。

- a) 販売コーナー
  - 附属図書館による本のリユース市
  - 農産物の販売、生協による名大グッズ販売
- b) 体験企画
  - キャンパスの自然観察
  - 名大ウォーキングツアー
  - あかりんご隊科学実験
  - セグウェイ体験コーナー（今回初めて）
  - 名古屋大学 NUMAP
- c) 施設見学ツアー・公開
  - スパコン、メディアスタジオ、超高圧電子顕微鏡、他
  - 豊田講堂見学ツアー（今回初めて）
- d) スポーツ企画
  - サッカー親子教室（グランパスコーチ）
- e) 附属図書館、博物館、文書資料室企画
- f) あいちサイエンスフェスティバル

#### 4. おわりに

名古屋大学全学同窓会は、設立10周年を迎えてある程度の成果も上がっていますが、多くの課題も抱えています。今後とも全学同窓会活動にご参画いただきますとともに、物心両面でのご支援をお願いいたします。



図-15 グランパスコーチによるサッカー教室



図-17 豊田講堂ホワイエ（法学部展示など）

# 名古屋大学シンポジオンホールでのチェンバロコンサートが20周年を迎える The Cembalo Concert at Nagoya University Symposion Hall marked its 20th Anniversary

コレギウム・ムジクム代表 藤井 義子 (1958年理学部卒)

名古屋大学シンポジオンホールでは、毎年、チェンバロコンサートがコレギウム・ムジクムによって開催されており、昨年20周年を迎えました。ご夫妻で代表をつとめてこられた本学卒業生の藤井義子様、名古屋大学管弦楽団創設やチェンバロコンサートの様子などをお話し頂きました。

The Cembalo Concert by Collegium Musicum has been held every year at Nagoya University Symposion Hall, and last year marked its 20th anniversary. Ms. Yoshiko Fujii, a graduate of Nagoya University, who has been a leader of the orchestra with her husband, told us their memories of the Nagoya University symphony orchestra and the Cembalo Concert.

## —名古屋大学管弦楽団をつくって—

中学生で終戦をむかえた私達の頃は、滝子の旧八高校舎で教養部時代をすごし、その教養部時代に自然発生的に名古屋大学管弦楽団が出来ました。夏には足助で合宿をし、秋には医学部の旧図書館講堂で演奏会もしました。メインはバッハのブランデンブルク協奏曲第4番。1番フルートをふいたのが正行で、私は調律も出来ないピアノで通奏低音のチェンバロパートをひきました。はじめはヴァイオリン、チェロ、フルート、オーボエ、クラリネット位しかそろわなかった楽器も次第に増え、今では名古屋大学交響楽団として愛知県芸術文化センターの大ホールで毎年演奏会を続けていることは、とても喜ばしいことです。

## —チェンバロにたどりつくまで—

縁あって私達は自動車を生業とすることになりましたが、生活の通奏低音には音楽があって、正行はNHK名古屋放送局管弦楽団でフルート、ピッコロをふき、当時毎週生放送のあった食後の音楽に出演し、私もピアノのレッスンは続けてい

ました。チェンバロは子供の頃ラジオでできましたが見たこともなく、あこがれの存在でした。1970年頃、ヤマハでチェンバロの展示会があって見に行きましたが、バッハモデルは500万円代でとても買えませんでした。その後、チェンバロの歴史を学んで知ったことですが、この当時のチェンバロはモダンチェンバロと呼ばれて19世紀終りに生まれたもので、ファリヤとかプーランクなどが作曲したものではつかわれますが、正統から少しはずれています。チェンバロは16世紀に欧州で生まれたのですが、18世紀にフランスで完成に近づいたといえます。只、イタリアにはイタリアの、ドイツにはドイツの、イギリスにはイギリスの民族性豊かな音楽があって、それを表現するには各地独特の特性を持つ楽器を使用するにこしたことはありません。モダンチェンバロの時代にその音色に違和感のある人々が、昔の音色はどうだったのだろうか、バッハやクーペランはどんな音色を求めていたのだろうか、と考えオリジナルチェンバロの復活にうごきだしていました。レオンハルトなどの演奏活動で、ヒストリカルチェンバロがバロック界の大勢を占めようとしていたのがその頃で、私達は丁度その波にのれて、東海地方にヒストリカルチェンバロが1台もない時代に、アメリカのフランク・ハーバード

のキットを手に入れてつくりました。出来上がったチェンバロを見に東京芸大の山田貢講師が訪れたのをきっかけに、チェンバロを勉強するグループが生まれ、コンサートをしよう、出来ればバッハの4台のチェンバロのた



J・S・バッハ 4台のチェンバロのための協奏曲 ザ・コンサートホール  
細川和子・野間直美・藤井義子・中野振一郎



シンポジオンのコンサートの御客様

めの協奏曲を、と云うことになりました。京都から、半田から、長嶽から、ヒストリカルチェンバロが集められ、1978年6月3日、第1回チェンバロ協奏曲のゆうべを中電ホールでひらき、この日をコレギウム・ムジクム設立の日としました。今は電気文化会館で毎年続けておりますが、今年6月22日で36回になります。バッハの4台のチェンバロのための協奏曲を毎回演奏する会は日本にも少なく、まして世界には皆無です。楽器をそろえ維持するむずかしさ、気が合って演奏法のそろった奏者をそろえること、各種難関をのりこえながら、20年余ご指導下さる中野振一郎氏を中心により仲間づくりが出来ていて幸せです。平成5年には愛知県から芸術文化選奨文化賞をいただきました。

## — 小さなコンサート —

チェンバロは大音量の出る楽器ではありません。小さな会場で、楽器のすぐそばで、生の音を聴いていただきたいと小さなコンサートをはじめて36年になります。その一部がシンポジオンコンサートで、大学内らしく毎年テーマをきめてお話もすることにしています。平成19年には、名古屋大学におけるチェンバロ演奏会を通して馥郁たる芸術文化を醸成し社会に発信してきたとのことで、平野総長から感謝状をいただきました。

40年近く前に名大オケから分派した古楽研究会の面々とは親しい交流が続いていますし、浪川先生、博物館の先生方、若い頃この学舎で共にすごした先輩や同輩、チェンバロをとおして知り合えた皆様など、多くの皆様のお力によってコレギウム・ムジクムの今があると思います。本当に感謝です。今の世の中、それぞれが少し生きにくくなっている中で、例外はあるけれど人間の感性は鈍くなっているように感じます。音楽という切口で、小さな空間で人間どうしのやさしい会話を紡ぎ続けたいものです。



J・S・バッハ プランデンプルク協奏曲第5番の第2楽章  
名古屋大学医学部 旧図書館講堂で。

(故)若井一朗 (ヴァイオリン) 高橋 昭 (ピアノ) (故)藤井正行 (フルート)  
ペイン・クリニック 名大神経内科教授 名古屋三和自動車(株)



藤井義子 藤井正行  
自宅。楽器の前で。何の話をしていたのかしら。

○“アンシアン・レジームのクラヴサン音楽”をテーマに、新築のシンポジオンでコンサートをしたのは、1992年10月19日のことでした。以来20年の月日が流れ、今年も多元数理科学研究科の浪川幸彦元教授のお世話で、9月7日(土)に会場を予約しています。



コレギウム・ムジクム スタジオコンサートのために  
チェンバロを調律する藤井正行 NHK 名古屋 R3スタジオ



平成19年9月15日 平野総長から感謝状をいただく。博物館で。  
この年シンポジオンは改装中でした。藤井正行は名大病院に入院中。

## 活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第19回は、大学院文学研究科で博士を取得され、現在大連大学副学長・日本語文化学院院長としてご活躍の宋協毅さんに、大連大学での日本語教育と国際交流の取り組みなどについてお話し頂きました。

The “NUAL People in Action” column features our alumni/ae playing active roles in various fields. The 19<sup>th</sup> article in this series covers the activities of Professor Xieyi Song, vice president of Dalian University and dean of the School of Japanese Studies. He talked about Japanese language education and international exchange activities at Dalian University.

### 宋 協毅さん



#### ■略歴

- |                                    |                                   |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| 1958年 6月 中国遼寧省大連市生まれ               | 1999年 4月 大連外国語学院日本語学院助教授          |
| 1984年 7月 大連外国語学院日本語学部卒業            | 2001年 8月 大連外国語学院日本語学院教授、<br>科研処処長 |
| 1984年 9月 大連外国語学院日本語学部助手            |                                   |
| 1988年10月 名古屋大学総合言語センター研究生          | 2003年 4月 大連大学学長補佐・外国語学院教授         |
| 1989年 4月 名古屋大学大学院文学研究科博士<br>前期課程入学 | 2003年 8月 大連大学学長補佐・日本語文化学院院長       |
| 1998年 3月 博士学位取得                    | 2010年 4月 大連大学副学長・日本語文化学院院長        |

■専門 日本語学、日本語教育、通訳と同時通訳

#### ■社会活動

中国日本語教学研究会副会長、中国教育部日本語教学指導委員会委員、中国日本史学会常務理事、中国商務日本語教育研究会常務理事、中国翻訳・通訳学会理事、東アジア日本語教育・日本文化研究国際学会中国側代表理事、韓国日語日文学会海外理事、韓国日本語文化研究会海外理事、遼寧省国際教育学会副会長、大連市翻訳・通訳協会副会長、商務印書館『日本語研究』誌編集委員、大連外国語学院『日本語知識』誌編集委員、大連市政治協商会議常務委員、大連市無党派人士聯誼会副会長、大連市帰国教授聯誼会副会長など

#### ■名古屋大学での留学生活と中国への帰国

私は1984年7月に大連外国語大学日本語学科を卒業した後、母校で4年間日本語を教えていました。1988年10月に研究生として名大に渡り、翌年、文学研究科日本語文化専攻（現国際言語文化研究科所属）の修士課程に合格し、1998年に日本語の補助動詞の研究で博士学位を取得しました。1999年の3月に帰国するまでの間、ガソリンスタンドや新聞配達などのアルバイトをしたり、中日両語の通訳・同時通訳を中心に名大や名古屋中国語教室などで教えたりしながら、名古屋で足掛け11年の歳月を過ごしました。

帰国してはや14年。最初は大連外大からの説得に応じ、日本の大学からの専任教員としてのオファーを断念して外大に復帰し、4年間教えました。1986年に大連外大で中国初の中日同時通訳の授業を開設したこともあり、11年ぶりに後輩たちのために授業を再開したところ、喜んでもらえた上、同時通訳の授業の改革のための遼寧省の賞や、省の優秀教師などの名誉も勝ち取り、教授になり、そして大学全体の科研を統括する科研処の処長として、名大で仕込まれた日本語教授法の授業を中国の大学院において率先して開設したほか、中日韓日本語教育フォーラムを3回開催しました。

#### ■大連大学での日本語教育と国際交流の取り組み

その後、多くの大学からの誘いがありましたが、故郷への未練を断ち切れず、生まれ育ったアシアの大連のために尽くしたい強い気持ちが自分を大連大学に向かわせました。こうして2003年8月に、中国の総合大学で初めての日本語文化学院を立ち上げ、大連大学学長補佐（2010年より副学長）・日本語文化学院院長に就任しました。

以来、10年の歳月が流れ去り、中日両国の諸先生方のご支持やご協力のお陰で、学院の教員と学生が一丸となった新天地での日本語教育への取り組みも大輪の花を咲かせました。2004年度から9年連続の就職率



東北旧工業基地振興のための政策研究国際会議での同時通訳（2006年）



100%の達成、2005年と2010年度には2つの修士コースの認可、2006年度には教育部による教学水準評価の通過、2007年度には教育部海外試験センターの日本語学力検定試験場の批准、2008年度には本学院日本語専攻の全国の大学日本語専攻のランキングが49位に急上昇（ちなみに山東大学は48位、吉林大学は30位）、2009年度の遼寧省の特色のある専攻の認定、2010年度から学生が重点大学並みの1次募集Bランクへの躍進、2011年度には中国日本語弁論グランドチャンピオン大会の三等賞獲得、2012年度には中国日本語弁論グランドチャンピオン大会の一等賞、東北三省日本語コンテストの一等賞獲得など、一步一步地道に歩んで来ました。

この10年間、中日韓日本語文化研究国際フォーラムを4回開催し、水谷修先生、奥津敬一郎先生、工藤真由美先生、伊井春樹先生を始めとする諸先生方や、先輩の小林ミナ先生、母校の玉岡賀津雄先生、杉村泰先生をはじめとする諸先生方にお越し頂き、中国の日本語教育界への大きなご示唆、ご刺激をいただきました。昨年の10月には第5回目を予定していましたが、国際情勢の急変で今年の9月に再開することになり、今はその準備に取り掛かっています。その他、毎年、日本語文化シリーズ講座を実施し、日中両国の学者や地元の日系企業の管理者などによる言語文化、企業文化の講座を平均して30回以上設けています。

また、母校で教えられた言語と文化の両方の重要性を強調し、学生達には常日頃日本語の勉強のみならず、日本の社会と文化に直に触れるように仕込みました。10年来、日本の交流校は2003年当初の3、4校から北陸大学、筑波大学、金沢大学、広島大学、中央大学、名古屋外国語大学など現在の40校近くになり、毎学年100名ほどの学生の20%の優秀な学生が上述の大学へ交換留学に行き、また30%以上の学生は共同育成プロジェクトで日本へ留学に行くことができ、全体の50%以上の学生は在学中に日本で日本文化を体験できるようになっています。また、日本人教師を中心に、地元の日本領事館や日本商工会のご支持を得て、生け花、和服の着付け、百人一首、俳句、日本食などのサークルと日系企業・領事館への見学などが盛んに行われており、中日韓飲食文化祭と外国語カラオケ大会をそれぞれ7回開催し、日本の市民ギター代表団、詩吟代表団、尺八とお琴のジョイン



第四回中日韓日本語文化研究国際フォーラムの開幕式  
(2010年)



韓国の国際学術大会での講演  
(2011年)

ト、一人芝居、プロ歌手、大学の日本語教育実習、大学生交流団などを受け入れて、学生達を草の根の交流の輪に組み込んでいます。

### ■研究・教育活動と社会貢献

こうして自分自身も行政の仕事と学部生・院生の授業で忙しくしながら、『現代日本語の補助動詞の研究』、『敬語新解』、『日本語文化研究』などの著書や、『新編中日・日中同時通訳教程』、『中日韓三か国語対照・現代日本事情』などの教科書を20冊ほど、論文を60編ほど出し、現役の同時通訳者として活動する一方で、吉林大学、黒竜江大学、武漢大学、天津外国語大学、広東外国語と対外貿易大学、四川外国語学院など20校近く、筑波大学、九州大学、母校の名古屋大学、日本大学など10校余、さらに韓国と台湾地方の複数の大学で日本語教育と同時通訳人材の育成などについて講演してきました。その他、中国日本語教学研究会の副会長、教育部日本語教学指導委員会の委員、商務印書館の『日本語研究』誌の編集委員、大連市政协商会議の常務委員などを務めています。

母校の諸先生方、名古屋の皆様、本当にどうもありがとうございました。



中日国交正常化40周年記念  
国際カラオケ大会で熱演する  
学生たち (2012年)

中国日本語弁論グランド  
チャンピオン大会で学生  
が一等賞を獲得  
(2012年)



## 全学同窓会ラオス支部が設立される

平成24年12月14日（金）首都ビエンチャンのラオプラザホテルで、名古屋大学全学同窓会の11番目の支部であるラオス支部の設立総会が行われました。

総会には同窓生20名（全体で59名）を含む約40名が参加しました。大学から濱口道成総長、鮎京正訓副総長はじめ6名に出席頂き、全学同窓会からは中野連携委員会委員長が参加しました。ラオスの12月は乾季であり日中の気温は30度近くまで上がりますが、湿度が低いとため比較的過ごしやすい気候でした。

ラオス支部は、ラオスにおける制度上の理由で、日本への留学生の団体である「ラオス元留学生会（JAOL）」の傘下の一つの部門という形で設立されました。



支部旗の授与



集合写真

17時からの設立総会は同窓生のヴィライ・ランカヴォンさん（ラオス国立大学法律政治学部）が司会を、同窓生でご主人の瀬戸裕之さん（京都大学東南アジア研究所）が通訳をつとめられてラオス語、日本語の両方で進行しました。

会の冒頭、ラオス元留学生会（JAOL）会長のチャンサナ・シーチャントーンティップ氏より名古屋大学全学同窓会ラオス支部が正式に承認された事および、ブンフェーン・プームマライシット ラオス保健省官房長（YLP プログラム第一期修了生）が支部長に、他の同窓生5名が支部の役員に任命されたことが報告されました。続いてポーンメーク・ダーラーロイ日本ラオス友好協会会長より祝辞および挨拶を頂いた後、中野連携委員会委員長が同窓会の理念等を説明するとともに、ラオス支部が今後名古屋大学の国際交流の拠点になって頂きたいこと、および来年のホームカミングデイにはブンフェーン支部長を招待することをお伝えしました。

続いて磯正人在ラオス日本国大使館公使が挨拶された後に、濱口総長が挨拶と支部設立のお祝いを述べられるとともに、名古屋大学の近況や留学生の状況を説明されました。そして最後にラオスの今後の発展および支部の活動に期待すると結ばれました。

それを受けてブンフェーン支部長が、本日このような式典を開催できたことは、ラオスに在住する名古屋大学の卒業生、名古屋大学の先生、そして在校生との間の団結と友好関係を一層高めるための弾みになると感じていると述べて、今後名古屋大学、全学同窓会との連携を深め発展したいと表明されました。

その後濱口総長からブンフェーン支部長へ支部の認定証、支部旗の授与、記念品の贈呈があり、最後に参加者全員で記念撮影を行い式典は終了しました。

その後で懇親会に移りましたが、懇親会は鮎京副総長の乾杯で開始し、和気あいあいの雰囲気の中で進行しました。

会場ではYLPプログラムの修了生グループが、濱口総長やYLPで教えを受けた伊藤勝基参与や濱嶋信之教授と一緒に記念写真を撮ったり、法学研究科の修了生のグループが濱口総長

や留学中に教を受けた鮎京副総長を囲んで記念写真を撮るなどの光景が見られ、会も大いに盛り上がりを見せていました。予定されていた時間もあっという間に過ぎて、同窓生で支部役員の国会事務局法制局長アムパイ・チットマーノン氏の閉会の挨拶で懇親会を終えました。

なお、ラオス支部設立総会の様子はラオスの新聞にも掲載されました。(ラオス語および英語)

## Nagoya University Alumni Association Laos Branch launched



Authorities from Laos and Nagoya for a group photo at a meeting of NUAL in Vientiane.

(KPL) On 14 December 2012, Nagoya University, in cooperation with Japanese Alumni of Laos, held the launching ceremony of Lao Branch of Nagoya

University Alumni Association (NUAL) at Lao Plaza Hotel.

The ceremony was attended by H.E. Dr. Pongmek Dalalay, President of

Lao-Japan Friendship Association, Prof. Dr. Michinari Hamaguchi, President of Nagoya University and Mr. Makoto Iso, Minister of the Embassy of Japan

in Laos.

The NUAL was established in October 2002 and has 10 branches in Asia region up to today.

The Lao branch is the 11th branch, which is established under Japan Alumni of Laos. The purpose of establishing the branch is to contribute the society of respective countries by networking alumni of Nagoya University in all over the world, and to promote intellectual exchange between Japan and other countries.

The Nagoya University has accepted more than 59 students from Laos and plans to enhance cooperation with Laos especially in law education and medical area.

現地新聞 KPL NEWS  
2012.12.20掲載記事

## 大学支援事業目録贈呈

11月7日(水)、平成24年度第3回幹事会において、全学同窓会大学支援事業(平成24年度第1回)採択者に目録が贈呈されました。



採択事業代表者の方々

今回は、14件の応募総数から、表の3件が採択されました。事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会 HP でも公開されます。また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。

### 平成24年度第1回 採択事業

申請者所属・氏名		事業名
AC21事務局長・理事	渡辺 芳人	AC21国際スクーリング
附属図書館長	佐野 充	全学同窓会文庫「名大ゆかりコレクション」及び「ゆかり交流ラウンジ」の設置
留学生センター・教授	松浦まち子	「平成24年度 留学生のための就職活動支援コース」実施

## 支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

### 関東支部 NUAL Kanto Branch

関東支部は、2月12日、丹羽宇一郎関東支部長(前中華人民共和国駐劄特命全権大使、昭和37年法学部卒)による「関東支部設立10周年記念講演・交流会」を開催しました。昨年11月まで2年5カ月にわたって大使を務めた丹羽支部長が「どうする日本、どうなる中国」をテーマに講演し、各学部の同窓生約200人が熱心に聞き入りました。

講演で丹羽支部長は、沖縄県尖閣諸島をめぐる問題について「日中関係は一つの大きな危機にある」と語り、大使として築いてきた人脈から集めた最新情報なども交えながら、日中関係の現状を分析。日中間で、第二次世界大戦についての認識の差があることや、中国の首脳らは本心では決して日本と険悪な関係になることを望んでいないものの、国内向けに強硬な発言をしなければならない事情を説明しました。

また、領土問題を解決するには「司法で争うか、売買するか、または戦争で決着をつけるしかない」と3つの解決手段を挙げた上で「第4の道は休むこと」と指摘し、まず、日中両国が冷静になる必要があると話しました。故周恩来首相の「和すれば益、争えば害」を引き合いに、日中間が争っても有益なことが一つもないことを訴え、まずは日中の首脳が互いの本音を語り合う必要があると語りました。

講演後の交流会では、濱口総長が「国際化とリーダーになれる人材育成が、執行部の願い。大学を変えていきたい」とあいさつ。東レ会長で政府の産業競争力会議議員も務める榊原定征・全学同窓会副会長が乾杯のあいさつを行い、「産業競争力会議で、きょうの講演の内容を紹介したい」と述べました。

交流会にはノーベル物理学賞受賞者の小林誠先生（昭和42年理学部卒）らも出席。東京藝術大学の厚意による、声楽家の佐藤寛子さんとピアノ奏者の前田拓郎さんの演奏を聴いた後、全員で名大学生歌「若き我等」を歌い、片岡大造事務局長の閉会の挨拶で会は終了しました。

（文責 古田信二 平成1年法学部卒）

付記：本会は、主として会費等と幹事等の無償奉仕によって開催出来ましたこと、お礼申し上げます。節約できました諸経費残金は、名大に学びに来る留学生支援等を理念とする「名古屋大学基金」に「関東支部設立10周年記念」として寄付させていただくことを当日会場でお諮りし全員一致でご承認賜りました。丹羽支部長以下幹事とも相談し、経費を極力切りつめた結果と会場でお買い上げいただきましたエコバッグの売り上げも含めた30万円を寄付させていただきました。（事務局長 片岡大造）

■連絡先 関東支部事務局長 片岡大造  
E-mail kataoka@sol.dti.ne.jp



山口アナウンサーの総合司会により開会



講演する丹羽支部長



榊原副会長による乾杯発声



10周年記念ワイン



交流会であいさつする濱口総長

## 名古屋大学遠州会 NUAL Ensyu Branch

名大遠州会では、昨年11月16日開催の幹事会で第18回同窓会を平成25年6月15日（土）18時よりオークラクトシティホテル浜松で開催することが決まりました。

参加費等の詳細については、おって全学同窓会ホームページでもご案内いたします。

みなさまのご参加をお待ちしております。

■連絡先 名大遠州会事務局長 原田憲道  
E-mail enshuhrd@yahoo.co.jp

## 関西支部 NUAL Kansai Branch

関西支部は、下記の日程で、第8回総会・懇親会を開催いたします。今回は、丹羽宇一郎全学同窓会副会長（前駐中国日本国大使）に講演をお願いしており、また、濱口総長には、母校の近況についてお話しいただく予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：平成25年5月18日（土） 15:00～19:00

- 総会 ・濱口総長挨拶
- ・伊藤代表幹事報告
- ・丹羽宇一郎全学同窓会副会長講演  
演題「どうする日本、どうなる中国」

○懇親会

場所：中央電気倶楽部  
大阪市北区堂島浜2丁目1番25号

参加費等の詳細については、おって全学同窓会ホームページでご案内いたします。

■連絡先 関西支部長 笈 哲男  
E-mail fwpg2746@mb.infoweb.ne.jp

## 工学部「名原会」

名古屋大学工学部・工学研究科 量子エネルギー工学教室同窓会「名原会」の平成24年総会が、ホームカミングデイと同日の2012年10月20日（土）に工学部5号館（東山キャンパス）2階521講義室で開催されました。新役員が選出され、平成21-23年度事業報告、平成21-23年度決算、平成24-26年度事業計画、平成24年度予算が承認され、これまでに引き続き、「名原会ニュース発行」と「卒業生との集い」を中心とした名原会活動をすすめることとなりました。総会に引き続いて開催された懇親会では、卒業生の先輩方と現役学生・職員との交流が1時間ほど行われ、叱咤激励を頂きました。次回の総会は、平成27年を予定しております。



平成24年名原会総会の様子

■連絡先 名原会幹事 富田英生  
E-mail h-tomita@nucl.nagoya-u.ac.jp  
<http://www.nucl.nagoya-u.ac.jp/alumni/meigenkai.html>

## 国際言語文化研究科同窓会

国際言語文化研究科同窓会では、2012年10月20日（土）のホームカミングデイに同窓会総会および修了生の博士論文発表会、公開講座を開催しました。博士論文発表会では磯部美里氏（愛知大学非常勤講師）による「中国・西双版納タイ族における出産の医療化と女性たちの選択」、魏志珍氏（台湾：中華大学応用日語学系助教授）による「日本語の談話における視点の一貫性と言語理解・言語運用との関わり—台湾人日本語学習者を中心に—」が発表されました。いずれも文化や言語に関して綿密な調査や実験を実施して書き上げた完成度の高い研究で、専門外の人にも興味を抱かせる面白い内容でした。続く公開講座では「日本語と中国語の接点」をテーマに、杉村泰准教授（日本語教育）が「中国語話者における「～てならない」の許容意識と中国語の「～得不得了」による転移の可能性について」、鷲見幸美准教授（意味論）が「語の意味とカテゴリー化—「見通す」と「見違える」を例に一」、丸尾誠准教授（中国語学）が「事態の捉え方—中国語の方向補語“上”の表す開始義を例として—」、玉岡賀津雄教授（心理言語学）が「中国語母語話者による日本文の処理メカニズム」について講演を行いました。日本人と中国人は、顔は似ていても言語様式には様々な違いがあります。こうした違いを分析することは言語教育にとっても重要なテーマであり、聴衆からも関心の高さが伺えました。



ホームカミングデイの公開講座「日本語と中国語の接点」

■連絡先 杉村 泰  
E-mail sugimura@lang.nagoya-u.ac.jp  
<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/>

## 同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄付講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

### 学生による福島除染ボランティア活動

申請代表者：森 隆昌  
(工学研究科 助教)

椿淳一郎名誉教授がリーダーを務める知的クラスター創成事業（第Ⅱ期）において開発中のケーキレス高濃縮濾過システムを応用した除染装置の現地実試験と並行して、学生8名（8月3名、9月5名）による除染作業を行った。第1回目は福島県福島市の菅藤さん宅の庭土を、第2回は福島県本宮市の本宮第二中学校のグラウンドの土を除染した。あらかじめ知的クラスターの協力企業によって剥いであった表層の土を、専用タンクで水洗浄し、ケーキレス高濃縮濾過システムで濾過濃縮することによって、洗浄した砂礫は復土し、濃縮した放射性物質

を含む粘度質スラリーは回収するという一連の汚染土壌除染作業を分担して取り組んでもらった。作業は順調に進み、1～2トン程度の土壌を除染することが出来た。ボランティア学生の活躍によって、今後1日数トンの土壌を処理するために必要な装置の設計が可能になり、熟練者でなくとも除染が可能であることを示すことが出来た。参加した学生の感想からは、大学で取り組んでいる研究がどのように社会貢献できるのかを実感してもらえたように見受けられた。

また除染活動期間中の合間を利用して、福島医療生活協同組合のご協力で、仮設住宅を訪問する機会を設けて頂いた。学生たちは、テレビや新聞等の報道だけでは決して知ることのできない被災され避難生活を余儀なくされている方々の生の声を聞くことができ、大きなショックを受けると共に、「勇気ある知識人」として、今後自分はどのようにいったらいいのかを考えるきっかけを得たようである。今回のボランティアに参加してくれた8名の学生が、この貴重な経験を生かして活躍してくれることを期待する。



8月 菅藤さん宅の庭土の除染



9月 本宮第二中学校グラウンドの除染

### 人体解剖トレーニングセミナー

申請代表者：鳥橋茂子  
(医学系研究科 教授)

本事業は若い解剖学教育者の育成を目的とし、名古屋大学医学部に献体されたご遺体を使用させていただき、全国の医学部、コメディカル養成学校の人体解剖学担当教員の養成や再教育を行う場として毎年1回7月末から8月上旬の1週間開催される。今回も全国から多数の応募があり、資格審査の結果33名が参加した。今年は全学同窓会支援により新たにネットによる自動申請ソフトを購入することができ、事務手続きが大幅に簡略化された。また、名簿の作成、実習班の割り当て、メールの送受信等が一段とスムーズに行われ、受講者からも好評であった。



脳の解剖を見学する参加者

受講生は、今何をしなければならないか?自己分析の必要性、企業分析方法、合同企業説明会参加の心構え、履歴書やエントリーシート (ES) の書き方、企業人事はESや面接で何を見ているのか、マナー、姿勢等、実践的な知識や情報を得て、日本の「就活」を理解した。

開講当初、戸惑いの表情を見せていた受講生は、合宿で仲間との連帯感を育て、回を重ねるごとに打ち解けた雰囲気の中、真剣で活発な意見や質問が出るようになった。最終日には、スーツ姿のきりっとした受講生が頼もしく見えた。

今後は、各学生が内定を取るまで、個別相談、エントリーシートや履歴書の添削等に応じて、就活支援を行う予定である。



ネットによるセミナー参加申込



合宿で作ったドリームマップ (中津川研修センターで)

## 「平成24年度 留学生のための就職活動支援コース」の実施

申請代表者：松浦まちこ  
(留学生センター 教授)

当初、定員25名で募集したが、登録者は45名だった。講義室サイズに余裕があったため希望者は全員受け入れた。日本企業に就職を希望する学生にとってこのコースは、「就活」の基本から学べるものであり、就活という長期に亘る、しかも自分が動かないと何も成果が得られない不慣れた活動に指針を与え、共に頑張る仲間を得るものとして有意義であった。



就活準備 OK (コース最終日)

## 同窓会行事カレンダー

全学及び部局同窓会行事が下記のとおり開催されます。

詳細は、全学同窓会ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

### ○名古屋大学男声合唱団創立60周年記念

名古屋男声合唱団 演奏会  
名大男声東京OB合唱団

日時：平成25年4月21日（日）

開場 13:30

開演 14:00

場所：愛知県芸術劇場コンサートホール

入場料：1,500円（全席自由）

車いす席数限りあり

チケット取扱：長円寺会館

Tel: 052-231-0955

愛知芸術文化センター内プレイガイド

Tel: 052-972-0430

連絡先：古田

Tel: 052-876-3596

### ○関西支部総会

会合名：第8回関西支部総会

日時：平成25年5月18日（土）15:00～19:00

場所：中央電気倶楽部

大阪市北区堂島浜2丁目1番25号

Tel: 06-6345-6351

連絡先：関西支部長 笥 哲男

E-mail: fwpg2746@mb.infoweb.ne.jp

### ○名大遠州会総会

会合名：名大遠州会第18回同窓会

日時：平成25年6月15日（土）18:00～

場所：オークラアクティホテル浜松

Tel: 053-459-0111

連絡先：名大遠州会事務局 原田憲道

E-mail: enshuhrd@yahoo.co.jp

## 事務局からのお知らせ From the NUAL Office

### ●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費 Supporting Fee 支援会員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○支払い方法 郵便振替 Post Office Account 口座番号：00860-8-113043

自動引落 利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

## 「名古屋大学カード」でつながる大学支援

年会費永年無料！ 家族会員（1名）も無料です。

加入者は、9,300名を超えています!!



OB 企業等による優待サービス

木工家具、宝石、ビジネス週刊誌などを優待価格でご利用いただけます。詳しくは、下記 Web ページをご覧ください。

<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

## 編集後記

同窓会広報委員会では、全学同窓会設立10周年に合わせて10周年記念誌を制作いたしました。今回ご寄稿頂いた藤井様のように、今後も足跡をしっかり残して行きたいと思っております。今後も変わらぬご支援をどうぞ宜しくお願い致します。  
(全学同窓会広報委員会)

**NUAL** Newsletter No.19 平成 25 (2013) 年 3 月発行

Nagoya University Alumni Association

**NUAL 名古屋大学全学同窓会**

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail [nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp](mailto:nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp)

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会